



## 「フレア五日市」利用始まる



東京都 あきる野市  
市長 中嶋 博幸

あきる野市は、東京都の西部に位置し、都心へのアクセスは約60分という利便性と、秋川渓谷に代表される豊かな自然や天然温泉「瀬音の湯」を有する、ちょっと田舎でけっこう便利なちょうど良い「トカイナカ」なまちです。

平成の大合併の先駆けとして、平成7年9月1日に秋川市と五日市町が合併してあきる野市が誕生し、本年9月に市制施行30周年を迎えます。

このような中、秋川流域3市町村（あきる野市、日の出町、檜原村）の玄関口である武蔵五日市駅前に、武蔵五日市駅前拠点施設「フレア五日市」をオープンいたしました。

先に述べましたとおり、あきる野市の特性は、都会へのアクセスの良さと豊かな自然環境に恵まれていることです。私はかねてから、この「トカイナカ」の絶妙な立地条件と恵まれた環境を最大限に活用し、アドベンチャーツーリズムを含む体験型観光事業の展開が、地域経済の活性化、ひいては秋川流域全体の更なる発展に不可欠であると認識していました。



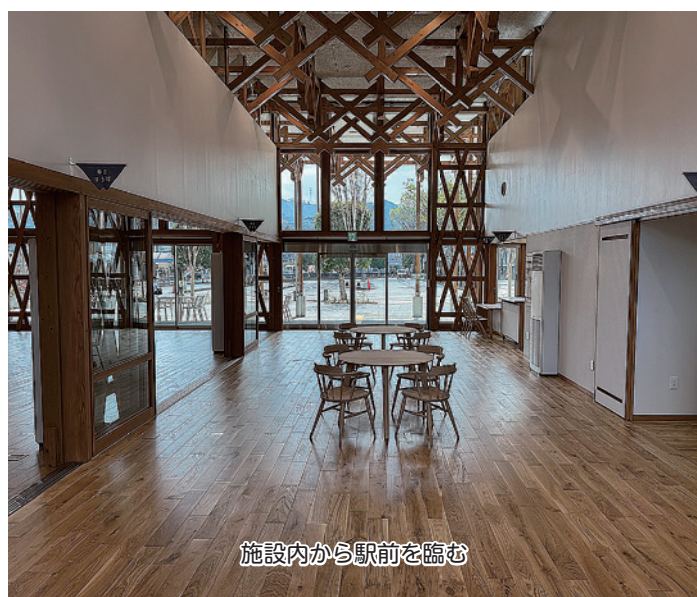
しかしながら、この武蔵五日市駅前周辺は、バスなどを待つ休憩スペースや、秋川流域に住んでいる地域住民や観光客が利用・交流する場が少ない状況にあります。また、トレイルランニングやロードバイク愛好家等の出発地点とされていながら、更衣室がないため駐車場や公衆トイレ内等で着替えたり、雨が降っていても野外で自転車を組み立てたりしなければならない状況にあり、来訪者への十分なホスピタリティが提供できていませんでした。

市は、これらの課題を解決するため、令和5年度に策定した「武蔵五日市駅前市有地活用計画」に基づき、「活力と創造力を満たす学習の場～みんなのWell-beingのために～」を基本理念に掲げ、地域住民や観光客、事業者など、さまざまな人が気軽に立ち寄り、交流し、学べる場、くつろげる場を創出するための整備を進め、令和7年7月1日に「フレア五日市」を開設いたしました。この「フレア五日市」という施設名称とロゴマークについては、一般公募にご応募いただいた中から選定しました。

木造平屋建て、延床面積約378㎡の本施設は、構造材、仕上げ材に多摩産材を惜しみなく使用しており、温もりのある空間です。天井には、特徴的なW型トラスによるレシプロカル構造を採用しており、木材の精緻な組み合わせり様は、地域住民の多様な交流と豊かな地域社会を象徴するかのようです。施設内には、子育て世代のご家族にも安心して利用いただけるようなキッズコーナーや

ベビールームのほか、あきる野市へ移住などを考えられている方の相談を受け付ける移住・定住相談窓口、市民や観光客が休憩スペースとして自由に利用できる「五日市ラウンジ」、企業研修や屋内イベントの開催などに活用できる収容人数約120人の集会室「中のひろば」を設けております。

また、屋外には、「外のひろば」として、各種イベントなどを開催できる貸出しスペースを設けているほか、広々とした軒下休憩スペースや手足を洗えるスペース、スマートロックシステムを採用した24時間無料で使用できる更衣室を設置しております。



施設内から駅前を臨む

ぜひ、一度、皆様にお越しいただき、この魅力を体感していただければと存じます。

今後は、周辺地域との連携強化を図り、広域的な観光ルートの開発や地域資源を活用した新たな体験プログラムの開発なども検討してまいります。



キッズスペース

フレア五日市が、住民はもとより、来訪された方々の憩いの場・交流の場となるよう、新たな人材育成、新たなビジネスモデルの構築や革新的な発想の創出へ貢献できるよう、そして、アクティビティやアウトドアスポーツの拠点となるよう務め、秋川流域全体の更なる発展を目指してまいります。

## 愛称マーク



とうきょうの木



## 「とうきょうの木」知ってますか!!

多摩産材認証協議会は、東京の木多摩産材を利用して制作された木工製品や木材との複合製品等を販売するに当たり、「とうきょうの木」を付加して販売できることを令和4年4月から取り組んでいます。

現在、「とうきょうの木」の使用は登録製材業者の推薦があった利用事業者に認定された事業体に限られていますので、多くの都民の皆様や一般消費者が目にとまる機会が少なく、「とうきょうの木」の認知度向上が大きな課題となっております。

昨年度から「とうきょうの木」の認知度向上を重点取り組み施策とし、広報活動を展開しております。

### ポータルサイトの開設

若年齢層の認知度向上を目指し、何時でも、何処でも「とうきょうの木」の新しい情報が確認できるサイトとなります。

### 都民・生活者参加企画の展開

都内の大学生、高校生が行う、「とうきょうの木」新たな活用提案や、実習活動の中での新しい商品開発や制作等を企画してまいります。

### 身近な施設からの情報発信の展開

都民の皆様が日常ご利用されている公共施設、商業施設、公園、駅舎施設等に「とうきょうの木」が使われています。

普段気づかない木の情報を皆様お伝えする企画も考えています。

### 「とうきょうの木」を見つけてみませんか

都内では木材に関する様々なイベントを毎年開催しています。今年の予定は次のとおりです。

### 東京味わいフェスタ(豊洲会場)

10月26日～28日 ガスの科学館特設会場、東京の豊かな森の恵みを楽しめるエリアです。

### 多摩産材利用拡大フェア(新宿NSビル)

11月20日～21日 「とうきょうの木」を取り扱う利用事業者が多数出展いたします。

### Wood Collection(東京ビッグサイト西ホール)

12月18日～19日 全国の地域木材の紹介、展示、商談会が予定されています。「とうきょうの木」の特設会場で様々な紹介を行います。

※上記イベント開催については主催者のHP等で確認の上ご来場願います。

## 「花粉の少ない森づくり運動」 募金活動展開中!!

多摩産材認証協議会では、6月8日、第23回ふっさ環境フェスティバル会場の多摩川中央公園で森林循環の重要性を掲げて、多摩産材認証制度の説明と「花粉の少ない森づくり運動」募金活動を展開しました。



募金活動は、フェスティバル参加団体である「明治大学校友会福生地域支部」が森林環境への貢献を掲げて取り組んできました。今年度は親子来場者に「木の大切さ」「木の温もり」を感じ

ていただく「木であそぶコーナー」を設置し、賑わいの一日となりました。当日の募金は7月11日に募金活動を主管する公益財団法人東京都農林水産振興財団花粉対策室を訪問し、活動で託された募金を花粉の少ない森づくり運動担当嶋田課長に手渡し、当日の活動報告を行いました。



募金の引渡し (左) 山田校友会支部長 (右) 嶋田課長

# 林業関係組織総会開催!!

## 東京都林業研究グループ連絡協議会

第58回通常総会を東京都青梅市の「S & Dたまごセンター」にて、来賓の青梅市小山副市長はじめ、会員6団体の代表者及び会員、総勢40名の参加で開催されました。

役員改選期となり、新たな会長に奥多摩林研の大野会長が就任し、今後の林研グループの舵取りを担うことになりました。



大野新会長の挨拶

今年度の新たな活動に「山しごと体感フェスティバル」への取り組みが承認され、6団体が協力し、“東京の森林・林業の魅力を広く都民にPR”することが決まりました。



総会終了後に、近隣の森林にて青梅りんけんが取組む現場を視察し、意見交換が行われました。

## 東京都林業改良普及協会 日本林業経営者協会 多摩会

東京都農林総合研究センター主催の森林・林業関係研究発表会は、東京都の林業関係者が一同に会する特別な日であり、6月16日の午後開催されました。

当日の午前中は、東京都林業改良普及協会と日本林業経営者協会多摩会の総会が開催され、議案が全

て承認となり、新年度のスタートとなりました。

総会終了後には、昨年度、東京都功労者表彰知事賞を受賞された池谷キワ子さんの表彰報告会も開催され、多数の参加者から池谷さんの今後の活躍を期して盛会裏にお開きとなりました。



## 東京都森林協会ホームページ リニューアル・画面一新です!!

令和7年4月より当森林協会のホームページをリニューアル、様々な情報をタイムリーに皆様へお届けさせていただきます。



HPアドレスは

<https://tokyo-shinrinkyokai.com>

### 「東京の木多摩産材認証制度」

- 要領・様式集の閲覧が容易になりました。
- 製材業者・利用事業者最新リスト掲載中です。

### 「とうきょう森づくり貢献認証制度」

- 問合せ欄が利用し易くなりました。
- 最新の要領が閲覧可能となります。

### 「林業関連団体」

- 関連団体情報が充実しています。

# とうきょう森づくり 貢献認証制度



## 第23～24回審査委員会開催!!

令和6年度の「とうきょう森づくり貢献認証制度審査委員会」は審査委員全員が集合形式にて開催されました。

昨年度の申請は、地球温暖化が進行する中二酸化炭素の吸収量を評価する「森林整備サポート認定」が多数を占めました。特に東京都、23区役所と都内市町村が連携し、森林環境譲与税を活用して多摩地域の森林整備の促進を目的とする「多摩の森」活性化プロジェクト推進協議会が、令和5年度より森林整備を始めました。

また、民間企業が共同出資することで、より面積の広い森林の整備が実施されたことも昨年度の特徴です。

## 第23回審査会の認定者の皆様

第23回審査委員会は令和6年9月9日開催され、全ての申請が認定されました。

### ■森林整備サポート認定

#### ◎「多摩の森」活性化プロジェクト推進協議会 様

千代田・中央・台東・荒川の4区が経費を負担して、あきる野市及び奥多摩町の森林整備を行い、二酸化炭素吸収量647.24t-CO<sub>2</sub>が認定されました。(令和5年度森林整備実施分)

#### ◎株式会社東邦建設工業 様

#### ◎株式会社ワタイチ 様

2社の共同出資により、檜原村の森林0.89haの間伐が実施され二酸化炭素吸収量20.6t-CO<sub>2</sub>が認定されました。

#### ◎株式会社根本造園 様

檜原村の森林0.63haの間伐が実施され二酸化炭素吸収量14.57t-CO<sub>2</sub>が認定されました。

#### ◎株式会社東京シビルコンサルタント 様

#### ◎ティエヌビー建設株式会社 様

2社の共同出資により、青梅市小曾木地区の森林0.67haの間伐が実施され、二酸化炭素吸収量19.38t-CO<sub>2</sub>が認定されました。

#### ◎東芝労働組合府中支部 様（企業の森）

青梅市日向和田の森林0.61haの下刈が実施され二酸化炭素吸収量76.23t-CO<sub>2</sub>が認定されました。

#### ◎公益社団法人青梅法人会 様（企業の森）

青梅市長淵の森林0.75haの除伐が実施され二酸化炭素吸収量42.90t-CO<sub>2</sub>が認定されました。

#### ◎株式会社カナデン 様（企業の森）

青梅市柚木の森林0.33haの下刈が実施され二酸化炭素吸収量21.60t-CO<sub>2</sub>が認定されました。



9月9日審査委員会の様子

## 第24回審査会の認定・認証者の皆様

第24回審査委員会は令和7年1月27日開催され、森林整備サポート認定10件、多摩産材製品による認証2件、建築物等の認証2件が審査対象となりました。

今回の特徴として、間伐材を搬出し新たな木材製品として施設の一部に取り入れた案件が認証となりました。高齢の人工林が増加する中、間伐材の利用として注目する取組みです。

### ■森林整備サポート認定

#### ◎株式会社不動テトラ 東京本店 様

#### ◎三栄建設株式会社 様

#### ◎株式会社ランドテック 様

3社の共同出資により、日の出町の森林0.30haの間伐が実施され二酸化炭素吸収量12.39t-CO<sub>2</sub>が認定されました。

## ◎田中工業株式会社 様

青梅市東青梅の森林0.13haの間伐が実施され二酸化炭素吸収量4.75t-CO<sub>2</sub>が認定されました。

## ◎大森造園建設株式会社 様

檜原村の森林0.13haの間伐が実施され二酸化炭素吸収量4.82t-CO<sub>2</sub>が認定されました。

## ◎株式会社大場造園 様

檜原村の森林0.14haの間伐が実施され二酸化炭素吸収量3.21t-CO<sub>2</sub>が認定されました。

## ◎SBSリコーロジスティクス(株) 様 (企業の森)

青梅市御岳の森林0.97haの除伐が実施され二酸化炭素吸収量63.45t-CO<sub>2</sub>が認定されました。

## ◎株式会社東日本銀行 様 (企業の森)

青梅市梅郷の森林0.90haの下刈が実施され二酸化炭素吸収量95.94t-CO<sub>2</sub>が認定されました。

## ◎株式会社メタルワン 様 (企業の森)

日の出町の森林0.70haの下刈が実施され二酸化炭素吸収量74.70t-CO<sub>2</sub>が認定されました。

## ◎日本事務器株式会社 様 (企業の森)

青梅市富岡の森林0.71haの下刈が実施され二酸化炭素吸収量62.73t-CO<sub>2</sub>が認定されました。

## ◎「多摩の森」活性化プロジェクト推進協議会 様

令和6年度は、千代田・中央・台東・荒川・品川・葛飾の6区が経費を負担して、あきる野市及び檜原村の森林整備を行い、二酸化炭素吸収量269.09t-CO<sub>2</sub>が認定されました。

## ◎杉並区様 (自治体連携)

青梅市所有の黒沢地区3.00haの森林で間伐が実施され二酸化炭素吸収量97.92t-CO<sub>2</sub>が認定されました。令和5年度に続き継続申請案件となりました。

## ■多摩産材製品による二酸化炭素貯蔵量認証

令和6年度要領改正により、二酸化炭素固定量は二酸化炭素貯蔵量に変更となりました。

## ◎飛騨産業株式会社 様

図書館椅子スタッピングチェアKC250

多摩産材を使用した図書館仕様の椅子で認証となりました。

## ◎多摩市立中央図書館 様

新しくオープンした中央図書館に、飛騨産業(株)製品スタッピングチェアKC250を115脚購入、二酸化炭素貯蔵量516.35kg-CO<sub>2</sub>が認証となりました。



多摩市立中央図書館に納入された多摩産材製の椅子

## ■建築物等による二酸化炭素貯蔵量認証

## ◎中央区 (建築主) 様

## ◎松井・坪井・クリスタルジャパン共同企業体 (施工者) 様

## ◎株類設計室東京設計室 (設計者) 様

檜原村の中央区の森の間伐に際して、搬出された間伐材を活用し、中央区の「本の森ちゅうおう」図書館に書架棚として設置されました。

間伐材を搬出して製品として利用する取組みであり、今後の木材利用のあるべき姿として注目する事例です。

二酸化炭素貯蔵量2.57kg-CO<sub>2</sub>が認証となりました。

## ◎中央区 (建築主) 様

## ◎株石本建設設計事務所東京オフィス (設計者) 様

前掲の間伐スギ材が、中央区立晴海西小学校及び晴海西中学校の校舎屋根のルーバーとして設置されました。

二酸化炭素貯蔵量37.82kg-CO<sub>2</sub>が認証となりました。

## 第23回認定書授与式開催

令和6年10月8日、新宿NSビル会議室にて第23回審査委員会において認定された申請者に対して、授与式が開催されました。

授与式では榎園農林水産部長より「多摩の森」活性化プロジェクト推進協議会様、(株)東邦建設工業様・(株)ワタイチ様、(株)根本造園様、ティエヌビー建設(株)様、東芝労働組合府中支部様、(株)カナデン様に認定書が授与されました。

当日、欠席されました皆様には授与式終了後に認定書はお届けされています。



10月8日授与式後の集合写真

## 第24回認証書授与式開催

令和7年2月26日、新宿NSビル会議室にて第24回審査委員会において認定・認証された申請者に対して、授与式が開催されました。

認定・認証書が授与された皆様は、(株)不動テトラ東京本店様、三栄建設(株)様、(株)ランドテック様、田中工業(株)様、大森造園建設(株)様、(株)大場造園様、(株)東日本銀行様、(株)メタルワン様、日本事務器(株)様、「多摩の森」活性化プロジェクト推進協議会様、飛騨産業(株)様、多摩市立中央図書館様です。松井・坪井・クリスタルジャパン建設共同体様、(株)類設計室東京設計室様には、東京の森づくりへの貢献に対する感謝の認証書が授与されました。

当日、欠席されました皆様には授与式終了後に認定・認証書はお届けされています。



2月26日授与式後の集合写真

## 国民一人一人が森を支える 森林環境税が始まっています

国民の皆様から納税いただいた「森林環境税」は国を通じて「森林環境譲与税」として全国全ての市町村と都道府県に配分され、森林管理制度を始めとする森林整備やその促進のための取組みに活用されます。(林野庁パンフレットより)

東京都及び区市町村では、森林環境譲与税を「森林整備」「人材育成」「木材利用」「普及啓発の取組み」等様々な分野で検討・活用されております。

「森林を整備し、森林を守る」取り組みが多くの都民の皆様理解いただくよう、森林所有者はじめ関係者の皆様にはご支援・ご協力をお願いいたします。

## 森林所有者の皆様へ

とうきょう森づくり貢献認証制度への民間企業からの問合せが増加しております。

森林整備サポート認定の候補森林と森林整備の費用支援申し出の企業様とのマッチングを進めておりますが、候補森林の選定に時間を要しております。8ページに制度の概要をご案内しております。ご一読、お願いいたします。

## 森林整備サポート認定による森林整備

### 候補森林を探しています。

お問い合わせ：東京都森林協会  
TEL 042-597-2881  
<https://tokyo-shinrinkyokai.com/>

「とうきょう森づくり貢献認証制度」では、森林整備に協賛（費用支援）する企業を森林整備による二酸化炭素吸収量を数値化して貢献認定（森林整備サポート認定）しています。

その対象となる森林は、手が行き届いていない、補助事業の要件に縛られずに除伐・間伐をしたいなど、整備を必要とする次のような森林です。

森林整備の選択肢に  
「サポート認定」  
による施業を加えて  
下さい。

#### 《再生事業や補助間伐ができない次のような森林》

- 小面積の森林（0.1 ha以上でOK）
- 雪害の幹折れ、傾斜、根返・根抜け、欠頂した木で荒れている。➡
- 沢が荒れている。
- 一部に崩壊地もある。
- 道路や家の近くで風倒が心配だ。
- ➡竹の侵入があって整理したい。
- 再生事業地でない森林（再生事業の協定では期間途中の伐採（間伐）が制限されている。）
- 補助間伐5年経過の森林で、再度間伐したい。

このような森林で除伐や間伐を行って、もれなく森林整備を進めよう。

